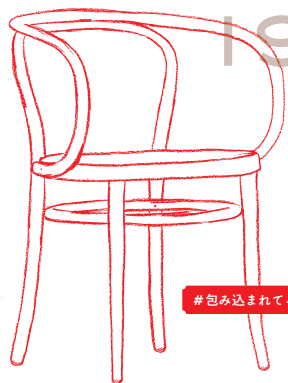


STORY of 33 CHAIRS in ULTRA

2018 年秋にできたばかりの ULTRA FACTORY 2F 工房には 33 種類の椅子があります。

どの椅子もこの工房ができたときに、“機能性”や“その椅子が持つデザインの歴史的価値”を基準に、こだわって選びぬかれたものばかり。今回は **33** 種類すべての椅子を紹介します。



#包み込まれてる感

209 THONET

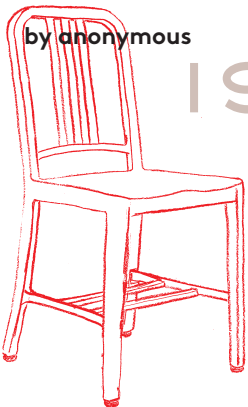
by Michael Thonet [1796-1871] | ドイツ

：曲木技術の発明により家具量産の近代システムの基礎を築いたデザイナー

THONET は 1900 年に開発した曲木技術を生かし、世界で初めて家具の大量生産化に成功したメーカーである。209 は、その代表と言える曲木椅子。100 年以上経った今も、多くのデザイナーに影響を与え続けている。

NAVY CHAIR EMECO

by anonymous



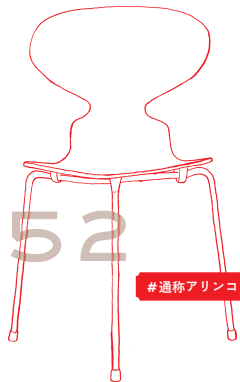
アメリカ海軍から空母と潜水艦用として要請を受けた EMECO 社によるイス。アルミニウムでできているため軽量で腐りにくく、日光を浴びても熱くならない。ちなみに電波探査装置にも引っかからないそう。

ANT CHAIR Fritz Hansen

by Arne Jacobsen [1902-1971] | デンマーク

：建物から家具、照明や食器類にいたるまでのデザインを手がけ、機能主義をポリシーとしたモダン様式の代表的デザイナー

ULTRA にあるのは 3 本足のチェアだが、のちに安全性を考慮して 4 本足のものも考案された。座面の素材はプレス成型された突板で、足はクローム仕上げのスチールパイプ製でできている。



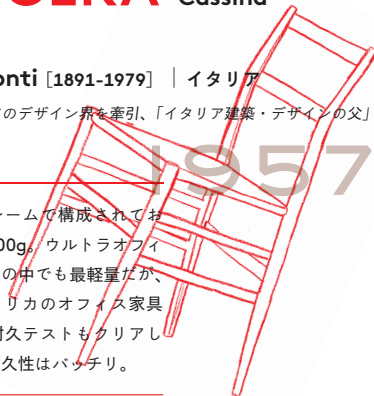
#通称アリンコ

699 SUPER-LEGGERA Cassina

by Gio Ponti [1891-1979] | イタリア

：戦後イタリアのデザイン界を牽引、「イタリア建築・デザインの父」と称されている

三角形のフレームで構成されており、重さは 1700g。ウルトラオフィスにあるイスの中でも最軽量だが、BIFMA（アメリカのオフィス家具の規格）の耐久テストもクリアしているため耐久性はバツリ。



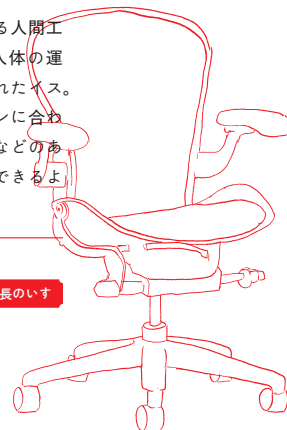
Aeron Chair

Herman Miller

by Don Chadwick [1936-] | アメリカ

：人間工学的な要素を取り入れ、革新的な製品を生み出し続ける工業デザイナー。家具デザインを始めたのは、Charles & Ray Eames の影響

ハーマンミラー社が掲げる人間工学（エルゴノミクス）、人体の運動理論に基づいて設計されたイス。座る人の体型や使うシーンに合わせて、背もたれや肘掛けなどのあらゆる部位を細かく調整できるようになっている。



#社長のいす

MR Side Chair Knoll

by Ludwig Mies Van Der Rohe [1886-1969] | ドイツ

：20 世紀モダニズム建築を代表する建築家、「God is in detail（神は細部に宿る）」という言葉でもよく知られている

4 本脚ではなく片側だけで座面を支える、片持ち式のカンティレバー構造をしたイス。当時は、冷たく固い素材のスチールパイプを大きな曲線の脚にしたのは、画期的で柔軟性のあるデザインだった。

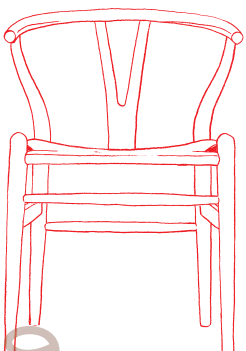


CH24 | Y Chair Carl Hansen & Son

by Hans J. Wegner [1914-2007] | デンマーク

：生涯で 500 脚以上の椅子を生み出したデンマークを代表するデザイナー

「209 (THONET)」より影響を受けており、背もたれなどが曲木製法によって制作されている。建築家に愛されたイスでもあり、世界中の建築事務所に置かれている。



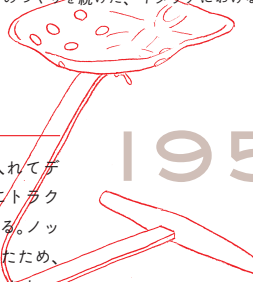
Mezzadro zanotta

by Achille & Pier Castiglioni

Achille: [1918-2002], Pier: [1913-1968] | イタリア

：使う人々や生活者の視点でものづくりを続けた、イタリアにおける革新的工業デザインの先駆者

「レディメイド」を取り入れてデザインされており、座面にトラクターのシートが使われている。ノックダウン方式にて届けられたため、組み立ては ULTRA にて行われた。

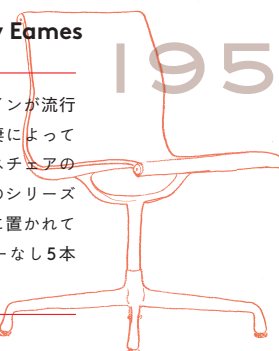


Eames Aluminum Group Side Chair

Herman Miller

by Charles & Ray Eames

オフィスチェアのデザインが流行した当時、イームズ夫妻によってデザインされたオフィスチェアの古典的名作。いくつかのシリーズがある中で、ウルトラに置かれているものは、キャスターなし 5 本脚のアームレスチェア。



座面は弾力性のあるポリウレタンフォームでつくられており、座面と一体化されたスプリングによって、快適な座り心地を生み出している。大量受注に伴って、スタッキング機能を追加したが、ウルトラにあるものは、販売当時のスタッキングできないオリジナルの 03。

Standard Chair Vitra

by Jean Prouvé [1901-1984] | フランス

：建築家としてフランスの建築生産の工業化に大きな役割を果たし、合理的で無駄のない構造の作品を多く生み出したデザイナー



フランスにて鉄鋼業が盛んになった時期に登場したイス。強度の必要な部分を鉄、人に触れる部分を木にするなど、機能の住み分けをすることにより、形の自由度が増している。

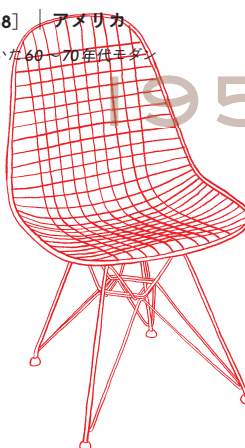
Wire Chair DKR Herman Miller

by Charles & Ray Eames

Charles: [1907-1978], Ray: [1912-1988] | アメリカ

：合板やプラスチック、金属などを工業製品に用いた 60〜70 年代モダンデザインのバイオニア

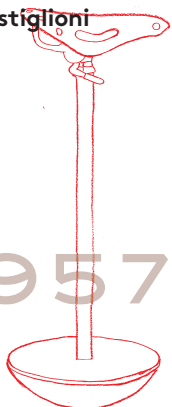
もともとイームズ夫妻がデザインしたイスで、スチールの使用を最小限にして「軽さ」をコンセプトとしている。意匠、特許権が切れた現在では、誰でも製作、販売することが可能になった。



Sella zanotta

by Achille & Pier Castiglioni

イタリアで、自転車と固定の壁掛電話が流行していた時代に、自転車に乗った心地で電話ができるようにとデザインされたイス。ULTRA でも電話の近くに配置している。



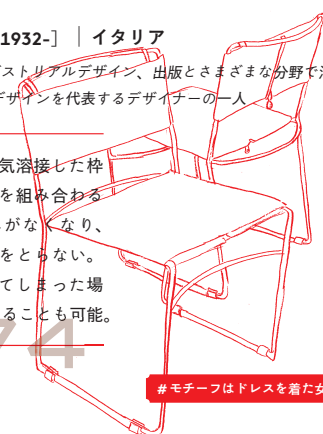
#子供心まんざい

DELFINA ROBOTS

by Enzo Mari [1932-] | イタリア

：グラフィック、インダストリアルデザイン、出版とさまざまな分野で活躍する、イタリアン・デザインを代表するデザイナーの一人

スチールロッドを電気溶接した枠組みにファブリックを組み合わることで、製品の厚みがなくなり、積み重ねた際に場所をとらない。ファブリックは汚れてしまった場合、取り外して洗濯することも可能。



#モチーフはドレスを着た女性

03 Vitra

by Maarten Van Severen [1956-2005] | ベルギー

：「置かれている環境の中で、できるだけ自然でありたい」というコンセプトのもと、素材そのものを生かすデザインを多数展開

みゆとかのんの椅子チャット

か：授業でいつも座ってるウルトラの椅子、座りにくい？ み：ガンバーの椅子（Arnold Circus Stool）？ そう思った！ 硬いー。みんなに座りにくいって不評だよ笑 か：私も尖ってる方、いつも後ろにして座ってる み：えっ、そうしたら座りやすくなる？ ぼこぼこしてどこが前か分かんないよね か：たまに尖ったとこ邪魔になるから、後ろ向きにした方が座りやすくなってる気がするー み：私もそうしょっかな

CHAIR ONE (concrete base)

Magis

by Konstantin Grcic
[1965-] | ドイツ

「幾何学」や「予測しない角度」を取り入れたデザイン家具を数多く生み出している、ジャスパー・モリソンに師事していた

座面は三角形で構成されており、まるでオブジェのような外見だが、計算しつくされた構造により確かな座り心地を実現。海外では美術館や空港の椅子として利用されていることが多い。コンクリート製のベースが足となっている。

#ずっしり

05

Vitra

by Maarten Van Severen
[1956-2005] | ベルギー

「MRサイドチェア」と同様に、カンティレバー構造のイス。座面は超硬質ウレタンを使用しており、体にフィットする柔らかさを生み出している。

DÉJÀ-VU STOOL

Magis

by 深澤直人 [1956-] | 日本

：「無印良品」のデザイナー兼顧問委員会メンバー、それ以外にも国内外のさまざまなメーカーとのプロダクトを手がけている

「Deja-vu（デジャブ=既視感）」という名の通り、どこか懐かしさを感じさせる、究極までにシンプルなデザインで、磨き仕上げのアルミニウムを使用したスタイリッシュなイス。

Arnold Circus Stool

Martino Gamper

by Martino Gamper [1971-] | イタリア

：アートとデザインの領域を超えて活動するデザイナー、100日に100脚のイスをつくるプロジェクトなど、最先端のデザインを追求する

イベント用に制作されたイス。さまざまな状況で使うことができるほか、4脚並べてテーブルにしたり、ひっくり返してもものを入れるなど、さまざまな用途で使うことができる。スタッキングも可能。

#逆向きに座るとよし

STEELWOOD CHAIR

Magis

by Ronan & Erwan Bouroullec
Ronan[1971-]、Erwan[1976-] フランス

肌が触れる座面や脚の部分を木、その他の強度が必要な部分をスチールによって成形したイス。ブルレック兄弟の作品は、カラーバリエーションが多いのも特徴。

：プロダクトとインテリアの分野で幅広く活動するデザイナーデュオ。作品と使い手の新しい関係性を提案する印象的なフォルムが特徴

Basel Chair

Vitra

by Jasper Morrison
[1959-] | イギリス

座面と背もたれをASAプラスチックで成形することにより、全木製のイスと比べ、快適性が高まっている。さらに、ビスを使わない「ブラグイン工法」で素材を接合することにより、座り心地と美しい仕上がりを両立している。

PIPE STOOL

Magis

by Jasper Morrison

アルミチューブとブライウッド合板という異なる素材を組み合わせで作られている。軽量で簡単に持ち運べ、耐久性にもすぐれているため、半屋外での利用もできる。

HAL Tube

Vitra

by Jasper Morrison

一体成型のポリプロピレン製の座面と木製の脚の組み合わせが特徴的なイス。座面は8色から、脚は3種類から選択することができる。座面は適度な弾力を持ち、体のラインを優しく包み込む。

HAL Wood

Vitra

by Jasper Morrison

「HAL Wood」と同様に、座面には柔軟性のあるポリプロピレンを採用。脚はクロームメッキ、またはパウダーコート仕上げから選ぶことができる。

Lightwood Chair

(メッシュシート) maruni

by Jasper Morrison

ジャスパー・モリソンが深澤直人とともに提唱した、生活に即した日用品の美を追求する「スーパーノーマル」という独自のデザイン哲学が込められたイス。ULTRAでは食事をするときに使っている。

Chassis.

Wiikhahn

by Stefan Diez
[1971-] | ドイツ

：国際的にも高い評価のあるドイツで最も将来を囑望されている若手デザイナー。Konstantin Grcicのアシスタントでもあった

シャシー（chassis）とは、車を支えているフレームのことで、Chassis.では車を支えるため技術が、椅子として人を支えることに転用されている。また、座面も車に使われる生地が意識されている。ULTRAには白と黒の2種類が置かれている。

Tip Ton

Vitra

by Edward Barber & Jay Osgerby
[1969-] | イギリス

プラスチック製のイスで、座面が先端（Tip）にもかって9度傾くことから「Tip Ton」と名付けられた。座ったとき、身体の体重移動により姿勢を安定させたまま前傾姿勢をとることができる。

Botan Bench

maruni

by Jasper Morrison

Lightwood Chairと同じmaruniによるベンチ。塗料による酸化で木材を白く変色させており、日光にも強いため、天気のいい日には外に出して使える。

#一緒に座ろう

#この前美術館にもあった

BIG GAME

Elric Petit [1978-]、
Grégoire Jeanmonod [1978-]、
Augustin Scott de
Martinville [1980-]

スイス

：暖かみがあって機能的、かつシンプルでデザインが特徴。カリモク、無印良品、IKEAなど多くの商品メーカーに製品デザインを提供する

BIG-GAMEがデザインしたイスを、日本の家具メーカーである「カリモク」が製造。スイスのカフェに置かれている昔ながらのイスをベースにデザインされており、日本国内の間伐材が使われている。

CASTOR CHAIR

KARIMOKU

フレームは丈夫で曲がりにくいポリプロピレンからできており、シートと背もたれは座る人の体に馴染む曲線を持ち、ゴム製のシャフトが軸となり柔軟にすることで、とても快適な座り心地になっている。

All Plastic Chair

Vitra

by Jasper Morrison

Rival Chair

Artek

by Konstantin Grcic

背もたれや肘掛には「ラメラ曲げ木」というArtek社の伝統的な技術が使われている。Rival Chairという名前は、Artek社の代表アルヴァ・アアルトを意識している。パートナーシップを結んでいるVitra社に対して、など諸説ある。

Pacific Chair

Vitra

by Edward Barber & Jay Osgerby

タスクチェアとしての完全な機能性と穏やかなデザインという2つのコンセプトの調和を目指して開発。機械的な構造が外見から見えなよう計算された背もたれが特徴的。

曲木製法とロボットアームによる切削によって制作されている。曲線が多用されており、座面、脚、アームの関係が座る人に沿うように、形に反映されている。

Castor Armchair Plus

KARIMOKU NEW STANDARD

by BIG GAME

か：でも、トーネットの椅子（209）は好きやった！ み：包み込まれる感があって良い！ あとあの椅子は歴史がすごく長いよね！ か：せやねん！ 100年以上前のやつ!! 昔のものが現役で使われてるってすごいよね!! み：ほんとすごいなあ。そんなに昔のが今も使われてるのって、なんだろう…？ か：過去のバトンを受け継いでブラッシュアップしながら今につなげてるって、そういえば先生が言ってたかも。 み：あと、座りやすさがどの時代の人にも受けたとか?? か：なるほど!! じゃあ椅子ってどれだけ座りやすいかってことに尽きるんかな? 結局は み：うん! 椅子は機能が一番分かりやすいプロダクトってことなのかもね か：そやね! み：あのガンバーの椅子にも分かってないだけでいいとこあるのかもー! か：もっと椅子のこと知りたいし、みんなにも広めたい! み：じゃあ#ハッシュタグつけていこうよ! か：👉